## I 自己評価

	(1)「快活」「友愛」「創造」を校訓とし、心身ともに健やかで、より豊かな人間性と「生きる力」を備えた生徒の育			
I 学校教育目標	成を目指す。			
	(2) 社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材育成を目指し、社会人としての一般教養を身に付けさせるとと			
	もに、創造性にあふれ、明朗快活で心豊かな人間性を養う。			
			『どんな生徒を待っているか』	
2 スクール・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー(GP)	カリキュラム・ポリシー(CP)	アドミッション・ポリシー(AP)	
	・豊かな思考力と適切な判断力を身	・課題の発見・解決能力を伸長する	・向上心と、多様性を尊重する姿勢	
	に付け、周囲と協働できる生徒	ための「主体的・探究的な学び」の	を持ち、周囲と協働しながら主体的	
	・互いの人格を尊重し、周囲と交流し	面接指導を推進	に学ぶ意欲を持つ生徒	
	ながら、自らの役割と責任を果たせ	・「思考」「判断」「表現」の力を伸長	・自らの目標や希望を実現するため	
	る生徒	し適切に評価するレポート課題の作	に、主体的に学ぶ意欲のある生徒	
	・郷土を愛し、地域の発展のために	成	・生徒会活動や学校行事及び他校と	
	地域や社会に貢献できる生徒	・生徒の個性や長所を伸ばすための	の交流などに自主的に参加し、周囲	
		カリキュラム編成と個に応じた細や	とのより良い人間関係を築いていく	
		かな指導の実施	意欲のある生徒	

		かな指導の実施	意欲のある生徒
3 評価する領域・分野	◇ 生徒指導(教)	育相談)・特別活動・保値	建管理
4 現状、生徒及び保護者等を 対象とするアンケートの 結果分析等	ング希望者は随 セラーとも連携し ○基本的なモラルー 意見が昨年度よ ○「いじめや差別を してくれる先生か りも増えた。これ	時スクールカウンセラーに 、情報収集に努めた。 やマナーの指導に関する りも増した。 :許さず、厳しく対応してい ぶ多い」といった項目では	は見受けられなかった。カウンセリ こつなぐことができた。スクールカウン 評価は生徒・保護者共に肯定的ないる」「悩みや相談事に親切に対応、保護者の肯定的な意見が昨年よって情報モラル講話や集会での指導価されたものと考える。
5 今年度の具体的かつ明確な 重点目標	・安全・安心な環境づくりを進め、個に寄り添い、自己肯定感を高めるように努める。 ・自他の人格と生命を尊重し、健全な人間関係を築かせるとともに、社会性の育成に努める。		
6 重点目標を達成するための 校内における組織体制	・少ない職員の中、分掌の主担当者を中心に連絡を密に取り、全職員体制で取 り組む。		
7 目標の達成に必要な具体的な取約 (I) 生徒の事態把握のための各種で 分析を行うと共に、懇談を随時り 中心に保護者や教科担任・特別 ターと連携して生活及び学習の要に応じて、スクールカウンセラー 携する。	アンケートの実施・ 民施し、学級担任を 支援コーディネー 支援に努める。必	` '	生準あるいは指標 7ールライフアンケート、いじめのアン 護者を対象とするアンケートの実施
(2) 生徒の主体的な伸長を図るため、学校行事·部活動・生徒会活動の活性化を図り、生徒が自主的に活動できるように計画的な指導·支援に努める。		(2) 学校行事・生徒会系 及び活動状況・大会	舌動の参加率及び部活動加入者数 ≳成績。
(3) 良好な対人関係の構築や社会 らゆる場面を通してコミュニケー を図るとともに、職員間での情報	ション能力の育成	,	での職員間の情報共有、必要に応じ 外部機関との情報共有。

9 耳	X組状況·実践内容等	10 評価視点	
・生	走の実態をできる限り早期に把握し、学校適応のた	(I)スクーリング参加率やレポート提	A(B)C D
800	)支援を行った。	出率の維持等、通信制の学習活	
•全!	<b>識員が連携して生徒の様子を観察したり、情報共有</b>	動に適応しているか。	
をし	たりして指導や支援を行った。	A(B)C D	
・スク	・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーや外 支援がなされているか		
部村	幾関と連携し、生徒を多面的に支援した。	(3) 学校組織マネジメントを機能させ	(A)B C D
		組織的な対応がなされているか。	
12	○予防的生徒指導を意識して実践しており、今年度に		
成	○多様化する生徒に対応するため、職員研修で「合理	総合評価	
果	生徒の情報共有を徹底し、日頃の指導に役立てた		
•	○生徒実態の多面的な理解と支援のため、スクール	A(B)C D	
課	ーカーとの連携を強化した。		
題	▲不登校経験者が多くいる中で、それぞれの生徒に		
	関係の構築や社会性が身に付くような支援をした	りすることが課題である。	

## 13 来年度に向けての改善方策案

- ・不安定な生徒には共感的な姿勢で接したり、生徒によっては答えを急がない気持ちで接したりすることを心がけ、生徒 自身の変化や成長に寄り添うことを心がける。また、社会性に関する面ではスクーリングを欠席する際は事前に連絡を 入れることを確認したり、授業のみでなく生徒会や行事への積極的な参加を勧めたりする。
- ・支援の必要な生徒や不登校経験者には、担任・特別支援教育コーディネーター・教育相談担当者・養護教諭・特別 支援教育支援員など多くの視点で生徒の様子を見守り、学習面だけでなく卒業後の生活を見据えた支援を行う。
- ・特別支援教育コーディネーターを中心に保護者や外部機関との連携を図り、相談機関の紹介や卒業後も利用できる事業所を紹介し、自立につなげる。
- ・生徒が各学習期間の締め切りや年度末になって困らないようにしたり、計画的に学習を進められるようにしたりする。 入学当初に通信制のシステムを詳しく説明し、保護者と生徒に理解してもらうことが重要である。

## Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日:令和6年1月26日

## 【意見·要望·評価等】

- ・日頃から個々に丁寧に指導をいただき感謝している。
- ・多くの生徒が生徒会に自ら立候補するなど学校生活に前向きな姿勢が見られて大変喜んでいる。